

令和7年度 学校評価書

東温市立川上小学校

令和8年2月4日

1 学校の教育目標

未来を拓き、ともにたくましく生きる川上っ子の育成

2 経営の基本方針

○協育 みんなが協力して育つ学校 ○共育 互いに聴き合い共に育つ学校 ○響育 互いの心が響き合う学校 ○郷育 故郷に生まれ、故郷を想い、故郷に還す学校

〔目指す児童の姿〕 ④わすあいさつ ④かち合う心 ④かんがえ、聴き合う力 ④みんなで創り、踏ん張る力

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	教育相談の充実 といじめ・不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に努めた。	3.8	3.5	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 職員室の座席配置を工夫し、相談しやすい環境をつくることで、教職員間での「報告・連絡・相談」が積極的に行われており、いじめ・不登校等を早期発見し、チーム体制で迅速に対応している。また、保護者への「打ち返し」を徹底し、信頼関係の構築に努めている。 児童に対して教職員から積極的に声を掛け、一人一人のよさや頑張りを認めるようにしている。 毎月の学校生活アンケートの結果を基に教育相談の充実にも努めたり、関係機関との連携を図ったりしている。 挨拶や返事、時間を守る、履き物をそろえる、物の整理・整頓等の基本的な生活習慣を身に付けることや、公共の場でのマナーについて、学校生活の中で機会を捉えて児童の理解を深めていくとともに、習慣化するよう保護者にも協力を仰ぐ。 一人一人の児童への声掛けや目配りを継続して行っていくとともに、保護者との細やかな情報共有を行うことで、日頃から安心して不安や悩みが相談できる温かな雰囲気づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ・不登校に対しては、本音で相談できる相手がいることや居場所づくり等が必要だと思ふ。先生方がしっかりと取り組んでいることに感謝する。 子どもたちが本心を言葉で発することでトラブルにつながるが多いが、その都度丁寧に対応している。 規範意識の高い子どもが育っている。 先生方が頑張っているからこそ、その取組を積極的に発信していくことで、保護者の理解も得られるのではないだろうか。
	基本的な生活習慣の定着	挨拶や時間を守ること、整理・整頓などの定着に努めた。	3.2	3.0	3.0		
	生徒指導体制の整備	家庭や地域との連携を密にするとともに、報告・連絡・相談による情報共有に努め、組織として生徒指導を行った。	3.8	2.8	3.4		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	各種学習プリントの活用や「漢字の広場」「計算の広場」「朝の読書」を利用して、学習習慣の確立や基礎的、基本的内容の定着を図った。	3.3	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 学級の支持的風土づくりや話し合いの技能の習得に取り組むことで、学習習慣の確立と学習の基盤づくりを行っている。 一人一人がじっくりと考える「考えタイム」と友達や教員と対話しながら多様な考えを引き出す「ことりタイム」を授業展開の中に意図的に取り入れることにより、自分で考え、聴き合う力の育成を図っている。 家庭学習の充実については、児童・保護者ともに課題に感じている。 ● 観点別評価シートを効果的に活用し、児童が自分の課題を見つけて改善策を考え「チャレンジ学習」に取り組んでいくことで、自主的に自らの学びを調整していく力の育成に努める。また、ICT機器(タブレット)を持ち帰り、積極的に学習に活用することができるような工夫をしていく。 ● 知識・技能を習得する時間と、思考力・判断力・表現力を育てる時間を、単元の中で計画的に配置し、バランスよく学力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「考えタイム」と「ことりタイム」を授業の中に効果的に取り入れて、思考力・判断力・表現力の育成を図ってほしい。 家庭学習は保護者の協力も大事であるが、子ども自身の意識を高める取組が必要である。時間の長さだけでなく、学習内容を充実させて、自主的に取り組むことができるような内容にしていくといいと思う。また、そのような工夫を家庭に発信していくとよい。
	家庭学習の充実	家庭学習の状況を点検し、主体的に学ぶ態度を高めるなど、家庭学習の充実にも努めた。	3.2	2.7	2.4		
	言語活動の充実	思いや考えを聴き合う「ことりタイム」や学級活動等で発表する場面を工夫し、考え、聴き合う力(プレゼンテーション力・他の人の意見(思い)を受け止める、自分の意見(思い)を他の人に伝える)を育成した。	3.4	3.3	3.2		
	思考力の育成	課題探究型の学習課題を明示し、授業展開を工夫することで、児童に思考力・判断力・表現力等を育成した。	3.6				
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳科を要とし、全教育活動を通じて、互いのよさ・ちがいを認め、生かし合う心、仲間とわかち合う心(コラボレーション力・だれとでも一緒に仕事(活動)ができる)を養った。	3.4	3.3	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や委員会活動、学級活動を通して児童が自己存在感を感じ、自己有用感を育むことができるよう取り組んでいる。また、清掃活動は、異年齢集団で行い、上学年が下学年に助言するなど協力して活動している。今後も、行事や児童会活動等の充実にも心掛けながら、児童が主体となる「仲間づくり・集団づくり」、「健康づくり・体力づくり」を工夫し、「あこがれられる川上っ子」の育成に努めていく。 運動会や持久走大会、縄跳び練習などに進んで取り組み、体力の向上やたくましい心身の育成に努めている。 給食センターや地域の農家の方と協力しながら、給食食材に関わる農業体験等を計画に取り入れることで、適切な食習慣の形成につながるよう努めている。 ● 今後も、行事や児童会活動等の充実にも心掛けながら、児童が主体となる「仲間づくり・集団づくり」、「健康づくり・体力づくり」を工夫していく。 ● 道徳の授業を要として、教育活動全体での道徳教育の推進を心掛け、互いのよさやちがいを認め、生かし合うことを大切にしようとするなど、多角的・多面的に物事を捉えることができる児童の育成に努める。 ● 教科等または給食時間における食に関する指導を、栄養教諭と連携しながら継続的に取り組むとともに、食育だよりやホームページ等で情報提供をしながら家庭との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 業間や昼休みによく遊んでいる児童が多く、遊びを通して友達との関わり方を学んでいると感じた。そして自然に体力づくりや人間関係づくりができていく。 業間や昼休みは子どもたちの心を育む時間である。これからも大事にしてほしい。 学校行事を通して、児童は個性豊かに育ってきていると感じる。 幅広い活動を行い、児童それぞれの個性を生かすような指導をしていると感じる。 素直で純粋な児童が多い。
	仲間づくり・集団づくり	異年齢集団活動や児童主体の活動を通して、みんなで創り、踏ん張る力(イノベーション力・仲間と共に新しいことに進んで取り組む・少々のことではくじけない)を育成した。	3.4	3.4	3.2		
	健康づくり・体力づくり	自らの健康に関心を持たせ、保健指導を通して自己管理能力の育成に努めるなど、健康の精神を培った。また、体力面の課題を把握し、体育的活動の充実を図り、健康の保持と体力・運動能力の向上を図った。	3.5	3.4	3.4		
	食育教育の充実	食に関する指導を通して、食についての関心を持たせ、望ましい食習慣の形成や食生活の改善に努めた。	3.5	3.2	3.1		
特別支援教育	特別支援教育の充実	児童一人一人に応じた学習指導や生活支援に努めた。	3.4	3.3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の違いや多様性を認め合い、友達が困っていたら助けたり、友達のよさを見つけたりするなど、「明日も行きたくなる、優しさあふれる」学級経営ができるよう教職員の研修を積んでいる。 自然体で堂々と学校生活を送ることができる児童が増えてきている。 支持的風土のある学級づくりに取り組むとともに、困ったときに自分から誰かに助けを求められることができる経験を積むことができるよう支援していく。 ● 安心して学び、生活できるユニバーサル・デザインの学級・授業経営に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人を大事にしており、個々に応じた支援が行われている。 先生方が研修を積み、限られた人数の中で丁寧な個別対応をしている。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	登下校の安全確保に努めるなど、家庭や地域・関係機関と連携して児童をまもり育てた。	3.2	3.6	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 登下校の安全確保については、保護者や地域の方の見守り、教職員の登下校指導など、多くの目で見守り活動を行うことで安全に登下校することができている。 様々な場面を想定しての避難訓練や災害・防災等に関する学習を行うことで、児童の災害時の対応に関する意識を高めることができた。 ● 教職員・児童・保護者ともに災害発生時の基本的な行動の仕方を理解するとともに、想定にとらわれず、臨機応変に対応することができる力が身に付くような訓練や啓発活動を今後も行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災学習に積極的に取り組んでいることがよく分かる。ぜひ、保護者にも啓発してほしい。 児童の安全を第一に考えて活動している。 登下校の態度がとても良い。地域の見守りも、安心・安全の側面だけでなく、人との関わり方の面においてもいい効果があると思う。
	防災教育の充実	教科等における防災学習や行事等で防災指導を適切に行い、災害に適切に対応する能力の基礎を培った。	3.6	3.7	3.5		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	学校や学年、学級の教育活動に対して、保護者や地域住民、外部人材等の参画及び協力を得た。また、学校運営協議会は、「地域とともにある学校づくり」を進める中核としての機能を果たした。	3.4	3.2	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習や体験学習において、保護者や学校運営協議会、協働活動サポーターと連携・協働し、児童の教育活動を支えることができた。 校内のPTA活動の実施時期や実施方法を見直すことにより、参加しやすくなった。 ● コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が一体となり、地域の人材や資源を活用した取組を充実させ、学校・家庭・地域が連携・協働する「みんなで息の合った教育活動」を、より一層推進する。 ● 「校報かわかみ」や学年だより、学校ホームページなどで発信する情報の充実にも努め、本校の教育活動についてより理解していただけるよう啓発をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習や体験学習等、可能な限り協力していきたい。 ホームページで学校の様子をよく知ることができるといいと思う。今後も充実させていってほしい。 地域や関係諸機関との連携を密にしながら、教育活動を行っている。
	PTA活動への協力	各種PTA活動に参加したり、協力したりした。	3.4		3.5		
	情報の共有化	積極的な情報公開・情報の共有化に努め、学校・家庭・地域が息の合った教育活動を推進した。	3.4		3.5		
特色ある学校づくり	青少年赤十字活動	わくわく班活動やJRC活動への主体的参加を通して、奉仕や協働の精神を培った。	3.3	3.3	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会が中心となって挨拶運動に取り組み、活動が定着してきたため、校内での挨拶は明るく大きくなってきている。地域の方や見守り隊の方への挨拶も少しずつ改善され、お褒めの言葉をいただくこともある。 緑の羽根募金や赤い羽根募金では、多くの家庭に協力していただいた。 ● 日程や気温、行事等の関係で全校集会を実施する回数が昨年よりも減少した。児童主体の集会活動や縦割り班の活動を充実させていく。 ● 児童が主体的に「健康・奉仕・親善」を意識した活動を立案し、実行することができるよう働き掛けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をしっかりとすることができるようになってきている。 学校の取組をホームページ等でもっと発信していけば家庭や地域にも伝わっていくと思う。
	挨拶運動	校内や地域で進んで挨拶を交わす児童(コミュニケーション力・誰とでも意見交換ができる)を育成し、親善の精神を培った。	3.0	3.3	3.2		
施設・設備の充実	ICTの有効活用	タブレット端末やICT機器を有効に活用し、分かりやすい授業づくりに努めるとともに、情報機器の適切な利用について指導した。	3.4	3.4	3.1	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書の活用やタブレット端末、大型ディスプレイ等の効果的な活用について、教職員の研修会を継続して実施し、より分かりやすい授業実践に努めている。 日常的な安全点検を実施し、破損箇所等は早急に修繕及び修繕依頼するとともに、潜在的な危険箇所の発見、除去に努め、安心・安全な環境整備を行っている。 定期的な校内掲示や四季に応じた栽培活動を行い、季節に合った校内の環境整備に努めている。 ● 分かりやすい授業の構築や児童の情報活用能力を身に付けるため、今後も情報機器の効果的な活用方法について教職員の研修を重ね、実践していく。 ● 教室に入りにくい児童や不登校傾向の児童の学習を充実させるため、ウェブ会議システムを活用した授業参加の方法を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の早い時期から、ICT機器等のいろいろな情報機器に触れることは大事だと思うが、アナログの体験も大事だと思う。デジタルとアナログをうまく使い分けて、有効な使い方を児童に教えていってほしい。 安全・安心な学校のために、防犯カメラの設置は急務である。
	施設・設備の安全管理	安全点検の日常化を図り、安心・安全な教育の場づくりに努めた。	3.5	3.6			
	校内環境の整備	季節感のある校内掲示や栽培活動への取組を行い、花と緑の美しい、潤いのある学校づくりに努めた。	3.4		3.3		